

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果 作成日 平成28年12月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300092
法人名	社会医療法人 恒心会
事業所名	グループホーム イーストサイドおぐら
所在地	鹿児島県 鹿屋市 笠之原町29番39-1号 (電話) 0994-41-7420
自己評価作成日	平成28年11月26日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成28年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、法人母体が社会医療法人ということもあり、定期的に訪問診察を受けることが出来、緊急時には日頃から連携をとり素早い対応がとれるように努めています。また地域医療との連携を積極的に図り、在宅訪問診療の導入も行い地域医療連携にも努めています。日頃の体調管理においては訪問看護との連携を密にとり異常の早期発見や予防にも取り組んでいます。地域交流、家族との関わりについては年間計画をもとに家族との関係が途切れないように支援を行い、また個別では在宅への外出支援など積極的に取り組んでいます。地域においては、地域への外出を中心に季節に応じたイベントを企画し、地域との繋がりが続けられるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○当ホームは、鹿屋市街地にあり母体の医療機関や訪問看護ステーションが隣接しており、法人は介護サービス事業を多岐に運営し地域医療と密接に連携している。

○理念は、玄関や共有スペースに掲示され職員一人ひとりがネームケースに入れていつでも確認できるようにしている。管理者と職員は、その理念を共有してめざすサービスのあり方について、ミーティングなどで話し合っている。

○代表者は、職員の質の確保・向上のための育成に力を入れており、プリセプター方式を取り入れ年1回以上外部研修への参加を勧めている。法人内の研修会もあり、介護主任が講師となり各部署の職員にフィードバックしている。

○過去にホーム横の用水路が氾濫した経緯があり、今年10月に水害を想定した避難訓練を実際に車輛を使って実施し避難経路を確認した。また、笠之原地区の避難訓練(炊き出し、消火訓練、煙訓練など)に参加し地域の協力体制については、自治会の会合でお願いしたり運営推進会議で協力を呼びかけている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	・職員一人一人が理念カードをネーム入れに携帯し、いつでも確認できるようにしている。また、事業所内に掲示し全職員が共有できるようにし理念の確認をしながら日々のケア実践に活かしている。	理念は、玄関や共有スペースに掲示されミーティングで触れ、いつでも確認できるようにネームに入れて常に理念を意識したケアが提供できるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・年間計画を作成し、日々生活の中で地域に外出し、地域の方々とのつながりが保てるように努めている。また、毎月ドックセラピーの方やボランティアにも来ていただき交流の機会を設けている。	笠之原地区は、「安心ネットワーク』の一環で毎年避難訓練や炊き出し訓練などに熱心に取り組んでいるが今年は職員が数名参加できた。地区の民生委員がよく訪ねて来てくれるなど協力体制がある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	・法人が主催する、オレンジカフェを通じ認知症の方への理解・支援の方法について地域の方へアドバイス等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に一回の運営推進会議の場では利用状況をはじめ活動報告やイベント、研修関係を中心に報告を行っている。報告をもとに参加者から意見や助言をして頂き運営やサービスの向上に努めている。また、全職員が共有出来るように議事録を作成し、いつでも閲覧できるようにしている。	会議は、隣接した小規模多機能施設と合同で開催されており、ホームからの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受けて、双方向的な会議となるよう配慮している。管理者は、前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画に挙げ家族の参加が得られるよう取り組んでいるところである。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・鹿屋市へは運営推進会議の場を利用して活動報告を行っている。日々の連携に関しては、メールや電話を利用し相談報告を行い指導を仰いでいる。また、必要時は直接市へ足を運び情報交換を図っています。また、今年度は同地区での徘徊模擬訓練へも参加し、協力関係を築いています。	市担当者とは、電話やメールでホームの実情やケアサービスの取り組みについて報告している。また、市の研修会案内は職員はもとよりホームに掲示し広く参加を勧めるなど配慮したり、地区の徘徊模擬訓練へ参加するなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束防止については、担当職員を中心に年間計画を立て毎月のミーティングで話し合いを行い防止に取り組んでいる。また、事業所内での勉強会も開催し、目的や禁止事項など正しい理解と認識が継続できるように取り組み全スタッフへ周知を図っている。	法人の身体拘束委員会があり、職員が交替で参加して各部署で権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の認識の共有を図っている。鈴や人感センサーなどに頼ることなく、安全面に配慮したケアを提供しているが、ミーティングや勉強会で継続の必要性についても検証するなど身体拘束することの弊害について話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止については、担当職員を中心に年間計画を立て毎月のミーティングで話し合いを行い防止に取り組んでいる。事業所内での勉強会を開催し、また、虐待の正しい知識を学び、日頃から虐待の早期発見につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	12月に勉強会予定。またケアの在り方や家族との関係性について話し合いの場を設けている。鹿屋市基幹型地域包括支援センターや法人内サブセンターと連携を図り事例等が発生した場合は、いつでも相談・支援して頂ける体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所の際利用約款、重要事項説明書を用いて十分な説明を行い納得されたうえで利用同意を得ている。法改定や制度改定の際も説明を行い変更の同意を得るようにしている。また、本人ご家族からの不安や質問があった際には解消できるまで説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱を設置し、意見を頂けるようにしている。サービス担当者会議や面会時など意見をもらえる機会としている。意見が聞かれた際は、真摯に受け止め適切な説明を行えるように努めている。	利用者からは、日々の生活の中で意見、要望を聞くよう努めている。家族は、面談時が多いが家族の参加が多い行事（花見、敬老会）を活用してコミュニケーションを取り意見などが出しやすい雰囲気作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、ユニットミーティングを実施し職員への意見や提案を聞く場を設けている。又、日頃から管理者とは話ができるように必要時は個別での面談を行い、スタッフの意見を聞くようにしている。施設内に職員の意見箱が設置してあり言いくらいことなど投書できる環境も作っている。	職員は、年間の個人目標を決め実践し、年1回管理者と面談している。職員向けアンケートを活用し、意見や提案をする仕組みがあり、実際にパート職員を増員している。運営に関しては、法人が「ニュースレター」を発行し、職員の疑問質問、要望などについて紙面で回答するなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の増員はなかなか難しい状況が続いている。半日勤務のパート職員が増員し日中は少しずつゆとりを持ち働けるようになってきている。管理者との面の機会を設けている。法人上司との意見交換を行いながら環境・条件整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・新入職・異動者にはプリセプターを配置し、指導を行っている。全職員年に1回以上外部研修を進めており、参加できている。介護職を対象として、現任研修を開催しており全職員が参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・大隅地区介護事業所協議会に参加し、協議会主催の研修等へ参加できるようにしている。その他の研修会においてもメールや市からの案内をもとに研修会に参加し、同業者との情報交換を行いながら、質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>・サービス開始の際、意見の確認やこれまでの生活情報の収集を行うようにしている。また、得た情報については全スタッフが共有し、本人の安心につながるように統一を図かり、利用者と職員の関係性構築に努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>・利用前にパンフレットを活用し、事業所説明を行い見学を行っている。利用開始時に意見を確認し、介護サービス計画書を作成しサービス提供を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談受付表や生活情報を基に、サービス提供を行っている。心身の状況を見極め必要時は家族や関係機関と直接連携をとり早急な対応を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の能力と意欲を見極めながら、洗濯物たたみや片付け、裁縫など利用者スタッフと一緒にしながら、日々の生活での喜びが共有できるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族が面会に来られた際、ゆっくりと交流が行えるように空間づくりに努めている。行事等がある際は参加案内のお知らせ等を渡している。面会やイベント・行事等の機会を中心に本人と家族の関係が続けられるように務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・イベントを企画し、地域の方へ広報を行い交流の機会を持てるようにしている。家族に限らず友人等の面会も快く受け入れている。また、一人一人に応じた外出支援や一時帰宅、行きつけの店へのお出かけ等のなじみの関係が途切れないように支援している。	近隣の神社に初詣に出かけたり、盆、正月に外出や外泊をされる方がおられる。また、知人や友人が訪ねて来られる方もいる。職員とは、スーパーやドラッグストアなどに買い物がてら外出したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日々のレクリエーションやイベントを開催し利用者同士がかかわれる機会を作り、コミュニケーションの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・何らかの理由で契約終了になっても、再入所申し込みの受け入れやご家族の来所受け入れ等、相談に応じるようにしている。また、契約終了になっても本人家族が不安にならないように医療機関や他事業所とも連携をはかり、スムーズな移行が行えるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・会話の中で意向の確認や聞き取りを行い把握するようにしている。言葉で表現できない方においても日々の関わりの中での表情や体動などを読み取り、また、困難な時は家族からの情報を頂きながら本人本位のケアに努めている。	本人の思いを家族から情報を得てユニットミーティングにて話し合っている。また、「ケア指示簿」を活用し、情報共有も図っている。職員は、本人の言葉や表情、生活歴を参考にして気持ちを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や入居後においても利用者やご家族より情報収集を行い、カルテやシステムへ入力し、情報の共有を図りサービス提供にいかせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々接する中で、心身の状況を把握しシステムの関わりの項目へ入力を行っている。入力した内容をもとに情報共有につなげている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・計画作成担当者が中心にカンファレンスを開催し、利用者や家族に職員より意見を聞き作成を行っている。モニタリングを実施し必要に応じて介護サービス計画書の変更を行いサービスの提供を行っている。	基本情報、アセスメントを整理・分析して、本人や家族の意向に沿った計画を作成している。担当者会議は、主治医や家族の日程を調整し開催している。介護計画書に、「課題分析結果」を記載するよう市から指導されている。モニタリングは、定期的実施され見直しにも柔軟に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについては、介護システムに入力し全職員が閲覧でき情報共有につなげている。また、毎月ユニットミーティングの中でもケアの統一や方向性についての検討を行い、連絡帳のこし、情報共有を行い統一した実践ができるようにしている。日々のケアについてはモニタリングを実施し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者の状況に応じ、協力医療機関、訪問看護、在宅医とも連携を行い日々の支援にあたっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・実習生の受け入れやボランティアの受け入れを積極的に行い運営を行っている。これまでの地域との関わりや繋がりについては、事前に本人・ご家族から情報収集し外出などを中心に本人の楽しみが続けられるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を中心に支援。受診時は職員の同行を基本に情報交換を行い、適切な支援が頂けるようしている。家族が同行可能な場合はDr、家族、ホームで情報共有が図れるようにしている。関係機関とは24時間連携とり利用者、家族の安心に繋がるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医になっており、職員、家族と外来受診される方や訪問診療を受けて適切な医療を受けられる環境がある。薬剤師、訪問看護師との連携があり、在宅医療に熱心な医師との関わりがあり家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>・協力機関である訪問看護ステーションことぶきへシステムを活用し、毎週一回情報交換を行い、必要時には訪問をしてもらい相談・指導を受けている。必要時は早期受診に繋がっている。また、法人内の看護師とも24時間連携が取れるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>・入院が必要になった際、入居時の様子をサマリーにまとめ情報提供を行っている。医療相談員を通じて入院中の情報把握に努め、退院後の支援についても情報提供を受けれるよう書面で頂くようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・利用者や家族に対し入居時に書面にて方針を説明し、緊急時の場合を含め意思確認を行い同意を得ている。</p>	<p>昨年、1事例の看取り経験があり、看取りの指針・意志確認書・同意書がある。また、訪問看護ステーション、法人の当直看護師との連携体制がある。職員は、医療の研修会に参加した内容をフィードバックし知識を研鑽するとともに学習したことをケアやサービスに活かすよう努めている。管理者は、職員のメンタルケアにも力を入れており面談し、「メンタルチェック」を年1回実施している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>・毎年一名のスタッフが研修への参加を行い、研修を修了したスタッフを中心に急変時や事故発生時に備えて心肺蘇生法やAED操作キッドを利用し年に2回全職員を対象に勉強会を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯及び夜勤帯想定の下、利用者にも協力頂き避難訓練を行っている。全職員が参加できるように年に数回の訓練を行っている。また、10月にはホームからおぐら病院までの避難実施も行い火災に限らず、水害などが発生した際も想定した訓練を行っている。	水害を想定し実際に母体の病院まで車を使い避難訓練をしている。用水路が氾濫したことがあり雨期や台風による増水には注意している。地域は、防災意識も高く毎年避難訓練を実施しているが、今年は職員も参加することができて、炊き出しや消火訓練、煙対応訓練が習得できた。消防署立ち合いや自主訓練を年2回開催し全職員が参加できるよう計画・実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>・入浴や排泄時の羞恥心への対応等プライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。言葉かけの方法など尊厳を保ちながら一人一人に合わせた対応をしている。法人内にある接遇委員会にも参加し言葉使いや身だしなみ、対応などに注意し全スタッフが一緒に意識向上に取り組んでいる。</p>	<p>法人全体の接遇委員会があり、他部署職員が抜き打ちチェックを実施している。身だしなみ、言葉使いなどはユニット合同ミーティングで話し合い、自己点検シートを活用して振り返り、意識向上を図っている。自己点検シートは、鹿屋市が標準化した様式シートを活用している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>・利用者からの訴えがある場合傾聴に心がけ意思の表出が行えるようにしている。自己決定への心がけにも工夫している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・その日その日の利用者の体調や病状を考慮したうえで生活リズムに配慮し支援を行っている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>利用者個々の好みの把握に務めている。衣類交換の際、自ら選べるように支援を行っている。散髪においても本人の意向を確認の上、出張サービスを活用している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>法人管理栄養士が作成した献立を下に栄養価を考慮し提供している。間食など利用者と共に楽しく調理している。行事や日頃のおやつは利用者と職員と一緒に食事を作る事もあり楽しみに繋げている。ホームの菜園で作っている野菜も使い、季節を感じて頂けるよう取り組んでいる。</p>	<p>食事や栄養面は、法人が集中管理し提供している。ユニットごとに炊飯し、イベントでは鍋料理やそば打ち、誕生日のケーキ作り、おやつ作りを利用者と一緒に行っている。菜園もあり水やりして季節の変化を感じてもらい旬の野菜を料理に活かしている。外食は、少人数だったり、家族と楽しんでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成しており栄養バランスの摂れた食事の提供が出来る。食事、間食の水分摂取量はシステムに入力にて管理している。体調不良の利用者には食事量、水分量を記入出来る表を作成し、全スタッフが情報共有できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生が身体の調子を整えることが重要であることを認識し毎食後の口腔ケアを実施している。一人一人に応じた口腔ケア用品を使用している。口腔内のトラブルが発生した際には本人・家族の意向を確認して歯科受診の支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェック表をもとに排便状況を把握し、定期的にトイレ誘導を行いパット内に失禁がないように努めている。オムツ着用の方においても可能な限りトイレでの排泄支援を行うようにしている。業者、他職種とも連携を図り個々に応じたおむつの使用やあて方など検討し、自立に向けた支援を行っている。	職員は、排泄チェック表に排泄の有無だけでなく、水分量も記載し、トータル的に排便状況を把握して、おむつのサイズを変更するなどして使用量が減らせるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況を把握している。医師の指示の下、下剤の服用を行っている。オリゴ糖や食物繊維の多い食材の提供を行い、また下剤を使用せずセンナ茶（漢方）による排便コントロールも行っている。腹部マッサージや運動の促しも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴が定期的に行えるように支援し衛生保持に努めている。誘導の際、拒否のある方にも声掛けを工夫し、無理にすることなく実施している。基本は3/wの入浴支援としているが、一人一人の様態に応じて回数を増減したりまた体調によっては清拭等で代替援助を行うなどしている。	入浴をためらう利用者については、タイミングをはかったり、曜日を変更したり、職員が連携するなどして気持ちよく入浴ができるよう支援している。また、異性介助にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況に応じて昼寝を促す声かけを行ったり、ソファでくつろげるように支援している。居室ではゆっくり、気持ちよく過ごして頂けるよう寝具の調整、検討、室温等にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・病院から処方された薬(定期薬・臨時)の説明書を確認し、不明な点は担当医や薬剤師に問い合わせを行いその都度確認している。スタッフ全員に伝えるように申し送りをし内服薬による効果や副作用などの情報交換を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や裁縫・調理など以前行っていたことを話題づくりや作業に取り入れている。季節ごとの行事や外出も企画実施している。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮し、外出や外での活動を行っている。病院受診後等ドライブや外食等担当スタッフと利用者2人でゆっくり外で過ごすことも行っている。	恒例の初詣、駅伝見学、花見など年間の行事計画があり、受診時にドライブしたりスーパーなどで買い物を楽しむなどしている。職員は、家族と外出が続けられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者や家族の意向を確認し、能力を考慮した上で検討を行うようにしている。日常的に利用者の意向に沿えるように現金の把握を行っている。また、定期的に家族の方からの確認も頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族や知り合いから電話が来た際は、本人が直接会話できるように支援している。本人からの意向に対しても同様に支援している。また、毎月お手紙と写真を同封し状況をお知らせしこれまで本人が関わってきた方々との関係が続けられるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングを中心に常に明るい環境が提供できるように照明やカーテンなどを活用している。毎日清掃を行い衛生面へも配慮している。職員やご家族から頂いた花等を配置し季節感を感じていただけるように工夫している。また、壁には壁面や行事の写真等を掲示し利用者が居心地の良いと思っていたできるように工夫している。	ユニットごとに共有スペースの雰囲気異なるが、クリスマスのレイアウトが施され、家族の方が活けた盆栽が置いてあったり、ソファで横になっておられる方やカウンターで過ごす方、おやつのさつま芋をつぶしている方もおられるなど思い思いに過ごしている。また、畳スペースで過ごしておられたり、ベッドで横になるなど本人本位に自由に暮らし温かみのある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・座席の配慮やソファを配置するなどし、自由に移動する事が可能になるよう工夫している。テレビ好きな方への配慮も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者や家族に好む物、寝具等がないかを聞き持参してもらっている。本人の好むもの等を飾ったり、ラジオ、音楽が好きな方はCD等を持参して頂き、本人がゆっくり過ごせる居心地の良い空間づくりを行っている。	ソファ、冷蔵庫、鏡台などの馴染みの物を持ち込み、家族の写真や好きな芸能人のポスターに囲まれ心地良く過ごせる個性的な居室になっている。足元灯やセンサー、鈴などを活用し安全にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・各居室前には本人が自室を確認しやすいよう名前を表示、また筆筒等の位置を個々で本人にとって使いやすいように設置している。居室内も足元灯をつける等安全に配慮し整理整頓に努めている。また連絡ノートを活用し統一したケアを行えるよう支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない